

ナシ新品種「あきづき」の花芽確保と側枝利用方法

みんなで進めよう
茨城農業改革

農業総合センター園芸研究所

9月中旬～10月上旬に収穫となる食味良好な赤ナシ「あきづき」は、花芽の着生が不良な品種です。そのため、長い予備枝を利用して花芽を着生させ、短果枝と長果枝の両方を利用して着果量を確保します。

長い予備枝の利用方法

- ①長さ 150cm 程度の1年枝を切り返さずに冬季に 30～45 度に誘引して予備枝とします。
- ②生育期に先端部以外の新梢を随時摘心して新梢数を減少させ、短果枝と先端新梢にえき花芽を着生させます。
- ③主枝・垂主枝の先端部を高く配置し、樹形が乱れないように注意します。

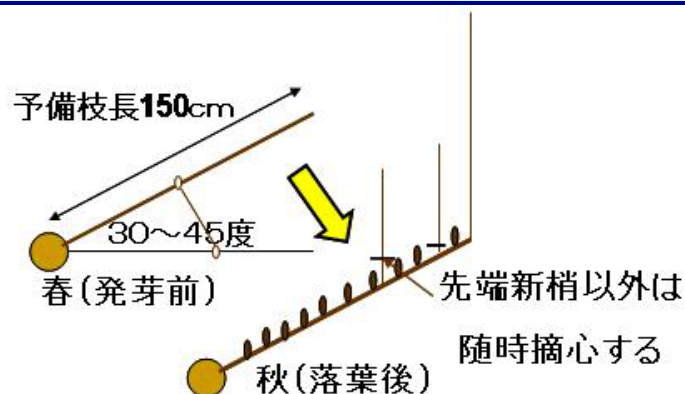


図1 長い予備枝の育成方法(1年目)

側枝の利用方法

短果枝が10個以上着生した予備枝を側枝として利用します。棚付け時に枝が折れやすいので注意します。短果枝と長果枝の両方を利用して、花芽2～3芽に1果程度着果させます。短果枝の維持が難しいため、側枝の利用年数は短い傾向にあります。長い予備枝を多数配置し、積極的に側枝の更新をはかります。

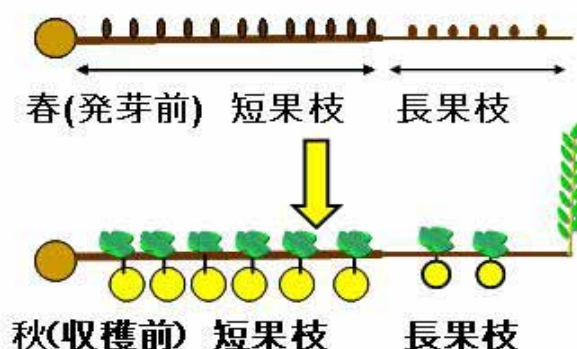


図2 側枝の利用方法(2年目)

着果管理方法

表1の目標値を目指して着果管理します。果実肥大および糖度は、①短果枝(果そう葉あり)、②長果枝(果そう葉あり)、③短果枝(果そう葉なし)の順に良好です。③短果枝(果そう葉なし)の果実でも一果重 350g 程度、糖度 11.5% 以上となるため、販売可能です。

表1 着果および収穫目標

項目	単位	目標値
着果数	果／花芽	2～3芽に1果
着果数	果／m ²	8～9
一果重	g	450～500
収量	kg／m ²	4.0～4.5
糖度	Brix%	12.0以上